



### 宮司プレス百二十一十八号

彦島八幡宮 宮司 ニュース  
 発行者 彦島八幡宮  
 宮司 柴田 宜夫  
 発行 平成二十九年 九月 八日

◇宮司の柴田です。 既刊号の第六十四号、

さらには、百十七号にも掲載しましたが「秋来ぬと 目にはさやかに 見えねども風の音にぞ おどろかれぬる」、秋が来たと、目には、はつきりとは見えないけれども、風の音によって、その秋の訪れに気づかされるといふ、「古今和歌集」秋歌の巻頭歌で、藤原敏行の歌です。 立秋の日に読まれた歌で、実際には、まだ来ぬ秋を思い浮かべてよまれています。朝明けが遅く、夜の帳(とばり)が降りてくるのも早くなりつつありまして、日が短くなってきました。 朝明けの境内は、いくらかしのぎやすくなり、まさに、「秋来ぬ」と、秋の気配を感じています。 とうとう、八月の宮司プレスは休刊の運びとなり、せっかく、七月に二回発行したのに、貯金を使い果たし、遅れの累積は、一つ増えて十ヶ月となりました。この累積を減らし、一月一回の発行という軌道へ導くには、毎月二回の発行を来年六月まで継続しなければなりません。 休刊している場合ではなかったのです。 そのような切羽詰(せつぱつ)まった状況で、なぜ、休刊の

たきます。 実は、毎年、神職養成講習会の講義、「神社神道概説Ⅱ」という授業を担当しているのですが、諸般(しよはん)の事情により、今年は、「神社神道概説Ⅰ」の教科も加わることとなりました。 授業数は、一コマ五十分の授業が、四十四コマ、時間数にして、三十六時間四十分です。 延べ日数にして十日間、山口市の神社庁へ出向しました。

新しい教科は、教案(きょうあん)の作成が間に合わず、授業と教案作成に追われる泥沼の日々だったのです。 「教える」とは、「学ぶこと」、久しぶりに勉学に勤しんだ夏でした。 受講生は、北は、北海道から南は、宮崎県、十五名、年齢も二十代から六十代まで、職業もさまざま、現役の小学校教諭もいらつしやいました。 八月二十四日の閉講式では、講師代表の挨拶も仰せつかり、感極まって落涙してしまいました。 加齢のせいでしょうか、涙腺(るいせん)がゆるくなったようです。 吉田松陰先生は、「教授は能わざるも、君等と共に講究せん」という姿勢で、松下村塾の塾生に向き合われました。 さらに

に、「必ず真に教ふべき」とありて師となり、真に学ぶべきことありて師とすべし」と「講孟余話」に述べられています。 師弟共に「何のために学ぶのか」という学問への「志」が大切だと論(さと)されているのです。 講師である私の力足らずで、悪戦苦闘(あくせんくとう)しながらも、日本人の伝統的信念の別名である神社神道を極めるという「志」のために、共々に学んだ、夏の講習会でした。

◇天変地異という言葉、本来は、寺田寅彦さんが、「天災は忘れたころにやってくる」と述べられたように、馴染(なじ)み深いものではなかったはずですが。 平成二十八年正月に発行した当宮の社報「産土(うぶすな)五十二号」の巻頭言に、「天変地異(てんべんちい)というリスクに備えなければならぬ。 北朝鮮をはじめとする近隣諸国の脅威(きょうい)が、外交上の安全保障とするならば、天変地異への備えは、国内の安全保障といえます」と記述(きじゆつ)しました。 前述(ぜんじゆつ)した寺田寅彦さん、「日本は、厳父慈母(げんぷじぼ)の配合よろしき国柄(くにがら)とも仰(おっしゃ)いました。 時には、テレビに映し出される神様も仏様もないような痛ましい爪痕(つめあと)を残す、まさに厳父です。 しかし、花鳥風月(かちょうふうげつ)、慈しみあふれ

る姿を見せてくれる、慈母、いずれも、私も  
もが生かされているこの大自然にほかなり  
ません。その天変地異の備え、我々にでき  
るのは、三つの備えです。「物の備え」、

そして、「行動の備え」、さらに、「心の備え」  
なのだそうです。◇平安時代の健保(け  
んぼ)一年に、宮中の行事・儀式・政務など

の故実作法(こじつさほう)全般にわたり記  
され、後世の準則(じゆんそく)となった「禁  
秘抄(きんぴしょう)を御著(ごちよ)され  
た第八十四代順徳天皇(じゆんんとくてんの  
う)様は、「神事を先にし他をあとにする。

朝夕に敬神の心をゆるがせにすることはな  
い。かりそめにも、神宮と内侍所(ないし  
どころ)に足を向けてやすむことはない」と

いう有名な言葉を残していらつしやいます。  
その大御心に添えるよう、日々、月毎、季節  
毎のお祭りに、襟を正して、「大難は小難、  
小難は無難に」と祈る、「心の備え」を大切  
にせねばと、思いを新たにしています。

◇中国の古い書物「論衡(ろんこう)」に、  
「五日一風(ごじついつふう)、十日一雨(じ  
ゆうじついちう)」とあります。天下泰平

(てんかたいへい)の世の中を例えるならば、  
五日に一度、穏やかな風が吹き、十日に一度、  
静かな雨が降る、そういう世の中なのだと思  
われています。「心の備え」である敬神生  
活を心がけられて、「五日一風、十日一雨」

の天下泰平でありますように。

◇七月、八月の祭典行事報告

▼月次祭

\*七月一日、十五日、八月一日、十五日

▼皇学館大学館友会山口県支部参拜

\*七月六日

▼六連島八幡宮七社祭 \*七月九日

▼福浦金刀比羅宮月次祭 \*七月十日

▼竹の子島天満宮例祭 \*七月十五日

▼朝粥会 \*七月二十一日

▼下関消防団彦島分団第六部(迫町)ポン

プ操法大会必勝祈願祭 \*七月二十二日

▼田の首八幡宮夏越祭 \*七月二十二日

▼六連島八幡宮夏越祭 \*七月二十五日

▼夏越祭 \*七月二十九日〜三十日

▼海士郷恵比寿神社夏越祭 \*七月三十一日

◇七月、八月の官司の行事会議等活動報告

▼八幡宮関係団体

◇夏越祭奉納グラウンドゴルフ大会

\*七月九日

◇敬神婦人会役員会 \*七月十一日

◇敬神婦人会奉仕作業 \*七月二十三日

◇奉賛会・維蘇志会夏越祭準備作業

\*七月二十七日

▼山口県神社庁、同下関支部関係

◇山口県神社総代会役員会 \*七月四日

◇山口県神社庁役員会 \*七月四日

◇山口県神社庁支部長事務局局長会議

\*七月五日

◇山口県神社庁教学研究委員会

\*七月五日

◇山口県八幡宮会 \*七月五日

◇下関神社総代会、下関市敬神婦人会役員会

\*七月十九日

◇神職養成講習会開講式 \*七月二十四日

◇山口県神社庁大麻頒布会議 \*七月二十四日

◇神職養成講習会講義

\*七月二十八日〜二十九日

※神社神道概説を担当、八コマ(ニコ

マ五十分、六時間四〇分の授業

▼下関西ロータリークラブ

◇例会 \*七月十二日、十九日

▼美祿社会復帰促進センター教誨活

動

\*七月十日(集合教誨、女子)

▼その他

◇人権擁護委員人権相談 \*七月六日

◇下関市立西山小学校あいさつ運動

\*七月十日

◇西山カップサッカー大会開会式出席

\*七月十七日

◇迫町自治会役員会 \*七月十九日